

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム株 1階		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0193600350-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvogyoCd=0193600350-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人がゆったり落ち着いて過ごせるよう、環境や関わり方に配慮しています。近隣に協力医療機関があり、ロードヒーティングが備わっているのも冬でも安心して通院ができます。敷地内に花壇や畑があり春には植え付け、夏は花の鑑賞、秋には収穫を共に楽しむことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR青葉駅近くの閑静な住宅地にある開設12年目を迎えた事業所で、近隣には協力病院や高齢者向け施設、公園がある。建物内は、居間、食堂が距離を持って独立しており、中庭を中心とした回廊式の造りも歩行運動に有効活用し筋力低下予防につなげている。町内会や地域住民、保育園、近隣スーパー等とも良好な関係を築き、運営や支援への援助を得て利用者の生活の幅を豊かにしている。支え手の方々からは災害対策でも忌憚らない意見を得ており、安心できる生活の次のステップを目指している。運営推進会議は、詳細な報告で透明性を担保すると共に普段寄せられる質問や意見を議題に載せ双方向的協議を持ち、様々な資料配布も加えて学ぶ機能やモニターのし易さに配慮し会議推進に努めている。ケアマネジメントも特筆でき、毎月のケアカンファレンスで全員の状態像をモニタリングし、アセスメントシートには職員全員が気づきを記入する環境を整え、根拠を明確にした中で現状に即した介護計画の策定に向けている。利用開始時に精神的不安で車椅子使用であった利用者が歩行器でしっかりと歩けるようになったり、寝込みや引きこもりであった利用者が、自ら家事仕事に携われるようになった事例もある。毎月のフリーメニューや行事、レクリエーションも利用者の希望を聞き取り存分に楽しめるようにしている。職員は本人の想いを少しでも実現できるように支援をしていきたいと述べている。理念の基本姿勢が浸透している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は常に目の届くところに掲示し実践を心掛けています。新入職時には理念の説明と理念携帯カードを渡しています。	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ基本理念を標榜している。毎月のケアカンファレンスでは、理念にある、「その人らしく暮らせるための支援」について、職員間で意見を出し合い検討している。理念を根幹とする介護支援の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ地域との繋がりを再開しています。町内会に入会しており町内のお祭りでお神輿が来たり、保育園児のお散歩コースに入れてもらい距離を取って交流しています。	町内会や保育園とは交流が保たれ、地域のスーパーとは利用者の食べやすい形態の惣菜や好みの寿司にアレンジするなどの協力が得られている。利用者の暮らしが豊かで安心できるものとなるよう、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し地域の方の見守り、様子に変化の見えた時は地域包括支援センターに繋ぐなどしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告の他、普段得られた御家族の意見を議題にし、会議で得られたご意見等は事業所に持ち帰り共有しサービスの向上に努めています。	会議は地域集会所で参集にて開催している。通常の報告事項の他に、普段得られた意見や質問等を議題に載せ協議している。事故・ヒヤリハット事項も詳細に報告している。議事録に職員の勉強会の資料等を添付し、取り組みの発信と共に情報提供を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かわからないことがあった時は推進会議、電話や訪問し助言を頂いています。	市の介護福祉課とは、実地指導や案件等で意見や助言を仰ぐなどして、適正な運営の維持に向け協働関係を築いている。市の担当者は運営推進会議に出席し、事業所運営の推進に向けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの作成、委員会の開催、研修会を定期的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。新入職時には研修を行っています。	身体拘束等の適正化のための指針、不適切ケア防止委員会要綱を定め、不適切ケア(身体拘束・虐待)防止委員会とこれらに係る内部研修を定期開催している。虐待の芽チェックリストを活用し、職員個々の支援状況の分析と振り返りを行っている。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の開催、研修会を定期的に行いすべての職員が注意を払い防止に努めています。新入職時には研修を行っています		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社のeラーニングで学んだり実際に後見人さんがいる入居者さんがおり直に学ばせてもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ながら説明し一区切りごとに不明な点はないか確認しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。契約時に苦情の窓口について説明をしています。面会時や電話での要望をご家族連絡ノートに残し事業所全職員が共有しています。	利用者からの家に帰りたいとの要望には本人が安心できる言葉を伝え、献立等食事に関する意向は行事やフリー食で対応し反映させている。家族からの意見や希望、質問などは個々の対応以外に、運営推進会議で協議する場を設け、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見の他、日常業務での意見や提案を反映し業務マニュアルの変更や役割分担の変更をしています。	毎月の会議では、業務等に係る協議やケアカンファレンスを実施し、職員が意見交換できる場を設け、より良い業務環境や最善の支援を検討している。職員は各種委員会や係り分担を積極的に受け持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の引き上げや資格支援制度、働きやすい介護の職場認証制度に取り組むなど代表者は努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニングやオンライン研修、集合研修の機会があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会の出席や外部研修参加の機会があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの訴えは少ないですがご家族、担当ケアマネージャーやサービス事業所の職員からの事前聞き取りから安心できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前からご家族のお話を聞きケアプランに反映する等関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に話をする機会を多く持つようにしご本人ご家族の必要としていることを取り入れながら社会資源も視野に入れた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念にあるように「共に生活」できる関係作りに努めています。時間がある時は隣に座り会話を楽しみます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応に悩んだり迷ったりしたときはご家族様に相談し助言を頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の他、ご友人や幼馴染が面会に来られています。事業所の電話も気兼ねなく使用できるよう配慮しています。	家族や馴染みの方々との面会が可能になり、居室にて和やかな時間を過ごしたり、家族と一緒に一時帰宅する利用者や、手紙のやり取りでは、職員が切手や便箋、葉書などを整えるなどの継続的支援により、大切な人と長年、文通している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め座席に配慮するなどし毎日のレクレーションで関わりが持てるような内容を心掛けています。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも連絡や相談があれば対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で意向を確認したり、会話が難しい場合はしぐさや表情、行動を見て意向の把握に努めています。アセスメントシートに趣味嗜好欄を作り変化があればそれに合わせたケアを心掛けています。	利用者の希望の表出や自己決定できる支援に努め、また、普段の利用者の言動を掘り下げて検討し把握に努めている。職員が把握した情報はケアカンファレンスで共有し思いに沿う支援に向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の他、ご家族様に生活歴シートの記入を依頼し職員間で共有し経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活のリズムや出来事をケース記録に入力し情報の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントには職員の意見を集約し毎月のカンファレンスでモニタリング情報と本人家族の意向を反映させています。	ケアカンファレンスで職員の気づきや意見、情報を蓄積している。状態評価を丁寧に実施し、多角的な視点で確認と分析ができるアセスメントの環境も整え根拠を明確にしている。関係者の意向を踏まえ、より良く暮らすための現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化のあった時は個別のケース記録に入力し職員全員に申し送られるようシステムを設定し変化に合わせたケアが実践できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ必要なサービスが提供できるよう情報を共有し臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、地域との積極的な関わりは自粛しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の要望を優先しかかりつけ医に受診ができるよう支援しています。個別の通院記録を作成し適切な医療が受けられるよう支援しています。往診を受けることで通院の負担を軽減できています。	これまでのかかりつけ医への受診が可能で、協力医療機関以外は家族対応であるが、状況に応じ事業所で通院支援を行っている。協力医療機関が近隣にあり通院環境や医療連携がスムーズである。往診は歯科・皮膚科の体制を整えている。	

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が月2回訪問し気になることは直接相談ができます。何かあった時は電話相談で受診に繋げてもらうこともあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書を持参。退院時は説明の席への同席や看護添書を頂くなど情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し了承を得た上で契約しています。体調の変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を検討しています。	「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」に基づき、利用契約時に家族へ説明し同意を得ている。主治医の意見や判断に基づき、家族を含め関係者間で今後の対応方針について話し合い検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受講し急変や事故発生時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練の際に地域住民の協力を得て訓練を行っています。運営推進会議で災害時の協力を依頼しています。	令和4年は地震・火災・昼夜想定避難訓練と今年6月に風水害想定垂直避難訓練を実施した。地域住民の参加協力が得られ、昨年は指定収容避難所まで車椅子で避難するなどの実践的訓練に臨んだ。災害備蓄品を確保し、BCPも策定済みである。	指定収容避難所への実践的避難訓練の結果を踏まえ、地域関係者からも避難先が現実的では無いとの意見が出ている。事業所では、近隣の施設や病院と避難場所等で連携し災害対策の強化に努める考えを示しているため実現に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケア研修で言葉かけの研修を行いご本人のプライバシーを損ねない対応ができるよう努めています。	不適切ケア研修で精神・行動症状を学び、チェックリストも活用し、接遇改善や意識向上に向けている。個人記録類はパソコン内、事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を伝えやすいよう日頃から関係の構築に努め自己決定に委ねるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しその方のペースに合わせてできる限り自由に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なヘアカット希望によりネイルやメイクをお手伝いしています。朝の整容、整髪、コーディネートをおアドバイスさせて頂くこともあります。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下さりえ、盛り付けや味見等共に行っています。リクエストによるフリーメニューやおやつ作りも定期的に開催しています。	フリーメニューの日に利用者の食べたい物や行事食を提供し、裏庭での飲食や敬老会はちらし鮎とノンアルコール飲料、誕生日はフルーツとケーキをデコレーションし食卓を盛り上げている。畑で収穫した野菜の利用や日常的にも彩りを工夫し、食欲が増すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎回記録し摂取量が少ない方はこまめに提供したり麺食に切り替える、お粥、刻み、トロミ等一人一人の状況に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科から指導を受け必要な方には支援をしています。状況により往診を依頼しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から時間を決めて誘導し日中は可能な限りトイレでの排泄を支援しています。使用する物品も個々に合ったものを使用することで自立支援に繋がっています。	排泄が自立している利用者もいるが、半数以上は尿意便意が不確かであるので排泄記録から判断し誘導している。排便は可能な限り便量や形状を含め記録している。本人に即した排泄用品類の検討を丁寧に重ね、衛生面の改善やプライドの保持などにつなげ、安心して生活ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事に注意し、医師から処方された薬を服用している方もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施しています。入浴が難しい場合は時間や職員を変更する等対応しています。入浴剤や湯上りの水分も楽しんでいただけるよう務めています。	曜日は概ね設定しているが、午前午後に分けて声かけし、時には夕刻に入浴する利用者もいるなど柔軟に対応している。湯上りにはスポーツドリンクや緑茶など好みの水分を選んでもらい提供している。入浴の苦手な利用者では、好きな音楽をバックミュージックにかけるとして気分よく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで自由に休息されています。休息の場所も居室と限定せずソファーや食堂で休息される方もいます。表情などを観察しこちらから促すこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がきちんとできるよう管理、支援しています。変化のあった時はかかりつけ医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意志や事前にご家族から頂いた情報を元に得意な事、出来ること、好きなことを見極め支援しています。		

ふれあいの里グループホーム様

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出は近隣の散歩に留めています。ホーム内での行事や裏庭でのお祭りの開催。花壇や畑を共に楽しむなどを毎日の生活に取り入れています。	事業所主体の個別外出は控えているが、天候の良い日は公園や近隣へ散歩に出かけたり、花壇や畑を眺めながら外気浴をしている。行事事や飲食を裏庭で楽しむ事がある。家族と一緒に自宅や美容院へ外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは理解しているが、現在買い物等の支援は自粛しており使う機会がありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間以外は、事業所の電話を気兼ねなく使えるよう支援しています。切手やハガキの購入を手伝うことで長年文通を続けている方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ、季節行事で四季を感じて頂けるよう工夫しています。施設内の温度や湿度にも配慮しています。	中庭を中心とした回廊式で居間と食堂が独立した居住空間である。全体的に清潔感があり、季節を感じる飾りつけや掲示物も落ち着いた雰囲気がある。空調に配慮し、快適な温湿度を保っている。浴室やトイレも清掃が行きと届いている。トイレ表示を分かりやすく見当識に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でくつろげるスペースを居間から離れた場所に作っています。1人で静かにテレビ鑑賞される方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいています。ご家族やお孫さんの写真を飾られる方もいます。	居室には床暖、クローゼット、照明、カーテンの備えつけがある。使い慣れた家具や調度品の他に、仏壇や冷蔵庫、DVDレコーダーを持ち込んでいる利用者もいる。趣味で作った飾り物や家族の写真などを掲示している。身体状況に応じ手すりやベッドの高さを調整し環境を見直している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており危険がないよう備品の配置に気をつけています。居室には表札を貼る、見えずらい方は拡大する。トイレには目印を付けるなどその時、その方に応じた工夫をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム株 2階		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoCd=0193600350-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvsoCd=0193600350-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人がゆったり落ち着いて過ごせるよう、環境や関わり方に配慮しています。近隣に協力医療機関があり、ロードヒーティングが備わっているのも冬でも安心して通院ができます。敷地内に花壇や畑があり春には植え付け、夏は花の鑑賞、秋には収穫を共に楽しむことができます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は常に目の届くところに掲示し実践を心掛けています。新入職時には理念の説明と理念携帯カードを渡しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ地域との繋がりを再開しています。町内会に入会しており町内のお祭りでお神輿が来たり、保育園児のお散歩コースに入れてもらい距離を取って交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し地域の方の見守り、様子に変化の見えた時は地域包括支援センターに繋ぐなどしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告の他、普段得られた御家族の意見を議題にし、会議で得られたご意見等は事業所に持ち帰り共有しサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かわからないことがあった時は推進会議、電話や訪問し助言を頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの作成、委員会の開催、研修会を定期的に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。新入職時には研修を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の開催、研修会を定期的に行いすべての職員が注意を払い防止に努めています。新入職時には研修を行っています		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社のeラーニングで学んだり実際に後見人さんがいる入居者さんがおり直に学ばせてもらっています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ながら説明し一区切りごとに不明な点はないか確認しています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。契約時に苦情の窓口について説明をしています。面会時や電話での要望をご家族連絡ノートに残し事業所全職員が共有しています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見の他、日常業務での意見や提案を反映し業務マニュアルの変更や役割分担の変更をしています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の引き上げや資格支援制度、働きやすい介護の職場認証制度に取り組むなど代表者は努力しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニングやオンライン研修、集合研修の機会があります。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会の出席や外部研修参加の機会があります。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの訴えは少ないですがご家族、担当ケアマネージャーやサービス事業所の職員からの事前聞き取りから安心できるような関係づくりに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前からご家族のお話を聞きケアプランに反映する等関係作りに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に話をする機会を多く持つようにしご本人ご家族の必要としていることを取り入れながら社会資源も視野に入れた対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念にあるように「共に生活」できる関係作りに努めています。時間がある時は隣に座り会話を楽しみます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで対応に悩んだり迷ったりしたときはご家族様に相談し助言を頂いています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の他、ご友人や幼馴染が面会に来られています。ご家族の協力も得ながら、馴染みの美容室を利用できるよう支援に努めています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を見極め座席に配慮しています。御利用者同士の居室訪問も介入や見守りで継続ができるよう支援しています。			

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも連絡や相談があれば対応しています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で意向を確認したり、会話が難しい場合はしぐさや表情、行動を見て意向の把握に努めています。アセスメントシートに興味嗜好欄を作り変化があればそれに合わせたケアを心掛けています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の他、ご家族様に生活歴シートの記入を依頼し職員間で共有し経過の把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活のリズムや出来事をケース記録に入力し情報の共有に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントには職員の意見を集約し毎月のカンファレンスでモニタリング情報と本人家族の意向を反映させています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化のあった時は個別のケース記録に入力し職員全員に申し送られるようシステムを設定し変化に合わせたケアが実践できるよう努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ必要なサービスが提供できるよう情報を共有し臨機応変に対応しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、地域との積極的な関わりは自粛しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の要望を優先しかかりつけ医に受診ができるよう支援しています。個別の通院記録を作成し適切な医療が受けられるよう支援しています。往診を受けることで通院の負担を軽減できています。			

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が月2回訪問し気になることは直接相談ができます。何かあった時は電話相談で受診に繋げてもらうこともあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書を持参。退院時は説明の席への同席や看護添書を頂くなど情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し了承を得た上で契約しています。体調の変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受講し急変や事故発生時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練の際に地域住民の協力を得て訓練を行っています。運営推進会議で災害時の協力を依頼しています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケア研修で言葉かけの研修を行いご本人のプライバシーを損ねない対応ができるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を伝えやすいよう日頃柄関係の構築に努め自己決定に委ねるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しその方のペースに合わせてできる限り自由に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的なヘアカット希望によりネイルやメイクをお手伝いしています。必要な物は買い出しの支援を行っています。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付けや味見等共に行っています。リクエストによるフリーメニューやオヤツ作りも定期的に開催しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎回記録し摂取量が少ない方はこまめに提供したり麺食に切り替える、お粥、刻み、トロミ等一人一人の状況に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科から指導を受け必要な方には支援をしています。状況により往診を依頼しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から時間を決めて誘導し日中は可能な限りトイレでの排泄を支援しています。使用する物品も個々に合ったものを使用することで自立支援に繋がっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事に注意し、運動や体操、水分にも気をつけています。医師から処方された薬を服用している方もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施しています。入浴が難しい場合は時間や職員を変更する等対応しています。入浴剤や湯上りの水分も楽しんでいただけるよう務めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで自由に休息されています。休息の場所も居室と限定せずソファーや食堂で休息される方もいます。表情などを観察しこちらから促すこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がきちんとできるよう管理、支援しています。変化のあった時はかかりつけ医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意志や事前にご家族から頂いた情報を元に得意な事、出来ること、好きなことを見極め支援しています。		

ふれあいの里グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出は近隣の散歩に留めています。ホーム内での行事や裏庭でのお祭りの開催。花壇や畑を共に楽しむなどを毎日の生活に取り入れています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは理解しているが、現在買い物等の支援は自粛しており使う機会がありません。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間以外は、事業所の電話を気兼ねなく使えるよう支援しています。切手やハガキの購入を手伝うことで長年文通を続けている方もいらっしゃいます。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ、季節行事で四季を感じて頂けるよう工夫しています。施設内の温度や湿度にも配慮しています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でくつろげるスペースを居間から離れた場所に作っています。1人で静かにテレビ鑑賞される方もいます。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅で使用していた家具を持ち込んでいただいています。ご家族やお孫さんの写真を飾られる方もいます。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており危険がないよう備品の配置に気をつけています。居室には表札を貼る、見えずらい方は拡大する。トイレには目印を付けるなどその時、その方に応じた工夫をしています。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム 柘

作成日：令和 5年 10月 10日

市町村受理日：令和 5年 10月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時、指定避難所への避難距離が高齢者施設としては現実的ではない。	災害時スムーズに避難ができる。	・避難方法の検討。 ・避難場所の検討と受け入れの依頼。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。